東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2008 年 4 月 11 日

クルアーンの特徴

ムスリムの皆様。聖クルアーンは、その様々な節において、クルアーンがどのような本であるかを説明しています。本日のホツバにおいて、その中のいくつかの節をお伝えしたいと思います。

この（クルアーン）は，人びとに対する明証であり，導きであり，また信心の堅固な者への慈悲である。（アル・ジャーシヤ 45 章第２０節）

これが（真の）導きである。主の印を信じない者たちには，忌しく苦しい懲罰がある。（アル・ジャーシヤ 45 章第 11 節）

いや，これは正に訓戒である。 だから誰でも欲する者には，それを肝に銘じさせなさい。(アル・ムッダッスィル第 54 と 55 節)

これは，人びとに対する伝言で，これによってかれらは警告され，かれが唯一の神であられることを知らされ，同時に思慮ある者たちが戒められる。（イブラーヒーム章第５２節）

それ（クルアーン）は，呪われた悪魔の言葉でもない。それなのにあなたがたは（それらのことを信用せず）何処へ行くのか。これ（クルアーン）こそは，万人への教訓に外ならない。それはあなたがたの中，誰でも正しい道を歩みたいと望む者のためのものである。（アッ・タクウィール章第 25－28 節）

われがあなたに下した啓典は，祝福に満ち，その印を沈思黙考するためのものであり，また思慮ある者たちへの訓戒である。（サード章第 29 節）

かれらはクルアーンを，よく考えてみないのであろうか。もしそれがアッラー以外のものから出たとすれば，かれらはその中にきっと多くの矛盾を見出すであろう。（アン・ニサーア章第 82）

このように，われはこの啓示をアラビア語のクルア―ンとして下し，その中でいろいろと警告を伝えた。多分かれらは主を畏れ，または教訓を会得しよう。（ターハー章第 113 節）

言ってやるがいい。「仮令人間とジンが一緒になって，このクルアーンと同じようなものを齎そうと協力しても，（到底）このようなものを(強?)すことは出来ない。」 われはクルアーンの中で，種々の比(輪?)を挙げて人びとに説明した。それでも人びとの多くは，不信心一筋に（その受け入れを）拒否する。（アル・イスラー章第 88 と８９節）

本当にこのクルアーンは，正しい（道への）導きであり，また善い行いをする信者への吉報である。かれらには偉大な報奨が授けられる。

また来世を信じない者には，われはかれらのために痛ましい懲罰を準備した。(アル・イスラー章第９と 10 節)

これはわれが下した祝福された啓典で，以前に下したものを確証し，また諸都市の母（マッカ）とその周辺に，あなたが警告するためである。来世を信じる者は，かれらの礼拝を守りそれを信仰するであろう。(アル・アンアーム章第９２節)

本当にこのクルアーンの中で，われは凡ての例を引いて人間のために詳しく述べた。しかし人間は，論争に明け暮れる。(アル・カハフ章第５４節)

もしもわれがこのクルアーンを山に下したならば，それはきっと遜って，アッラーを恐れて粉々に砕けるのを見るであろう。こんな譬えを，われは人間に示すのは，恐らくかれらが熟考するであろうと思うからである。(アル・ハシュル章第 21 節)

本当にわれは人びとのため，このクルアーンの中に種々の譬えを提示した。だがあなたが，仮令どの一節を持ち出しても，信じない者は必ず，「あなたがたは虚偽に従う者に過ぎません。」と言うであろう。(アッ・ローム章第 58 節)

だが，この（クルアーン）こそは，万有のための訓戒に外ならない。(アル・カラム章第５２節)